

令和7年度 愛知教育大学入学試験問題

標準的解答例または出題の意図及び評価の観点

【前期日程】

科目名：総合問題（生活・総合専修）

I

（出題の意図）

総合的な学習の時間における人とのかかわりが、子どもたちの探究のプロセスにおける質を高め、より広い考え・深い考えに導くことを学びの経緯や授業記録から読み取ることができるとともに、その教育効果を具体的な子どもの言葉や姿から捉え論理的に思考し表現する力をみる。（200点）

問1

（解答例）

A に入る言葉 心と心が通い合う関係

理由：大地と春雄はすでに親友関係にあり、普段の生活から安心して心と心を通い合わせることができる関係にある。他者を楽しませ笑顔にするためには、伝える内容以上に笑顔にさせたい人と笑顔になる人との心と心の通い合いが成立するような、精神的な距離の短さを実感できる関係性が大切なのである。そんな関係性を施設のお年寄りとの限られた時間や空間の中で出せれば、子どもたちが達成させたい三河万歳は自ずと表現できると考える。（199字）

（評価の観点）

- ・自分が考える子どもと高齢者との関係を述べているか。
- ・問いに関する自分の考えが上記で示した子どもと高齢者との関係に関連させながら述べているか。
- ・自分の考えに対する論旨を一貫して述べているか。

問2

（解答例）

探究過程に人とのかかわり合いが存在することで、子どもたちの表現力は高まっていくと考える。子どもたちは地域の高齢者とかわったことで、悠里のように心と心のつながりの大切さや、宏太のように人を感動させたいという新たな価値を導き出すことができた。人は子どもたちの思いや考えを肯定的に受け止め、その考えに対して直接反応を返してくれる有益な学習材である。人とのかかわりによって子どもたちの心は大きく動かされ、また人に自分たちの存在を認めてもらいたいという思考が、一歩高まった三河

万歳の表現につながるのである。(249 字)

(評価の観点)

- ・問いに関する自分の考えを端的に示したうえで、その趣旨を述べているか。
- ・問いに関する自分の考えを具体的な子どもの言葉や姿を捉えながら述べているか。
- ・自分の考えに対する論旨を一貫して述べているか。

II

(出題の意図)

子どもたちが思いや願いをもち、それを実現していく活動によって、どのような学びを得ることができるのかについて資料から読み取ったり、思考し論理的に表現したりする力を見る。(200 点)

問 1

(解答例)

子どもたちは、実際に犬との生活が始まると、どうしてよいのか解らないことが沢山出てきたため、何とかしてポチをちゃんと飼ってあげたいという思いや願いをもつようになり、一生懸命に読み書きをしたのだと考える。(100 字)

(評価の観点)

- ・犬の飼い方について、どうしたらよいかわからないという問題を解決する動機や必要性を理由として記述しているか。
- ・ポチをちゃんと飼育してあげたいという思いや願いを理由として記述しているか。
- ・自分の考えに対する論旨を一貫して述べているか。

問 2

(解答例 1) 協同性

ポチを飼ったり、訓練したりすることは、決して子ども一人で成し得ることではない。子どもたちは話合ってポチの飼い方を決め、力を合わせてポチの世話をした。また、彼らはみんなでポチを訓練する目標を立て、その目標達成に向けて、子どもたち同士で、そして大槻先生や野沢医師の協力のもと、ポチの訓練に成功した。そのような過程において、子どもたちの協同性が涵養されると考える。(180 字)

(評価の観点)

- ・ポチを飼ったり、訓練したりすることは、決して子ども一人で成し得ることではないことを理由として記述しているか。

- ・子どもたち同士が力を合わせてポチを世話したことを理由として記述しているか。
- ・子ども同士だけでなく、大人と協同したことも理由として記述しているか。
- ・自分の考えに対する論旨を一貫して述べることができているか。

(解答例 2) 粘り強さ

ポチを飼うためには、想像以上の忍耐や努力が必要になってくるだろう。そのポチの飼育に関して、教師は主体を子どもに委ね、支援に徹した。具体的には例えば教師は、子どもたちがポチと関わる時間をできるだけ多くした。そうすることにより、子どもたちはポチの飼育や訓練についてもじっくりと時間をかけて粘り強く行う機会を得ることができた。このような機会において、子どもたちの粘り強さが涵養されると考える。(193 字)

(評価の観点)

- ・ポチを飼うためには、想像以上の忍耐や努力が必要になってくることを理由として記述しているか。
- ・教師が主体を子どもに委ねたことを理由として記述しているか。
- ・子どもたちがポチの飼育や訓練について、じっくりと時間をかけて行う機会を得ていることを理由として記述しているか。
- ・自分の考えに対する論旨を一貫して述べることができているか。

(解答例 3) 学ぶ意欲

子どもたちは、自分たちで犬の飼い方について調べ、それを元にポチの飼い方を決めていった。このように自らが学び、それにより思いや願いを叶える過程において学ぶ意欲が涵養される。また、ポチの飼育や訓練の中で問題が生じるたびに、試行錯誤を繰り返すような経験を通じて学ぶ楽しさを実感し、学ぶ意欲が育まれる。さらに、実生活の問題解決の過程で、各教科等の内容を活用する機会を得ることは、それらを学ぶ意欲にもつながる。(199 字)

(評価の観点)

- ・子どもたちが主体的に思いや願いを叶えるために行動していることを理由として記述しているか。
- ・子どもたちが飼育する中で問題が生じるたびに試行錯誤していることを理由として記述しているか。
- ・試行錯誤の結果、子どもたちが成功体験を得たことを理由として記述しているか。
- ・自分の考えに対する論旨を一貫して述べることができているか。

(解答例 4) 知識・技能

子どもたちは、ポチの飼育や訓練をよりよいものにするために、必然的に「犬のかいかた」を何度も読んだ。これにより、読む力が育成される。また、大好きなポチを題材に絵を描いたり、粘土で作ったりすることで、ポチの特徴を表現したり、ポチの描画、造形に関して丁寧な作業に取り組むことができる。総じて、大好きなポチを題材として扱うことで、諸教科に対する動機づけとなり、知識・技能がより向上する考える。(193 字)

(評価の観点)

- ・ポチの飼育や訓練をよりよいものにするために、必然的に「犬のかいかた」を何度も読んだ。これにより、読む力が育成され旨が書かれているか。
- ・ポチを題材に絵を描いたり、粘土で作ったりすることで、ポチの特徴を表現したり、ポチの描画、造形に関して丁寧な作業に取り組むことができる旨が書かれているか。
ポチを題材として扱うことで、諸教科に対する動機づけとなり、知識・技能がより向上する旨が書かれているか。
- ・自分の考えに対する論旨を一貫して述べることができているか。